

平成
26
年度

あざれあ地域協働事業実践報告書

特定非営利活動法人

静岡県男女共同参画センター交流会議

平成26年度あざれあ地域協働事業実践報告書

もくじ

静岡県委託事業

あざれあ地域協働事業について	2
共同参画ワーキンググループ True Colors Planning	4
特定非営利活動法人生き活き岳南クラブ	8
いわたすみれの会	12
御前崎市シニアスクール実行委員会	14
特定非営利活動法人コラボりん湖西	16
特定非営利活動法人 色彩心理診断士協会 COMPAS	18
静岡エコセトラ	24
誕生学アドバイザー静岡県講師会	28
ぬまづ男女共同参画ネットワーク	32

静岡県委託事業

平成 26 年度あざれあ地域協働事業について

1. 事業の目的

静岡県内の地域で活動している団体が、地域の自治組織、民間団体、教育機関、企業、市町等と連携、協働して、男女共同参画の理解を促進するために行う事業を助成します

2. 事業の内容

募集について

A-C の事業をア～エのテーマを応募要件として、募集した。

A 地域において男女共同参画を進める研修会、後援会、意見交換会等の開催（開催規模は参加者数 30 人以上、開催時間は 2 時間程度を目安とする）

B 男女共同参画啓発誌等の作成・発行（製本をし、発行部数は 200 部以上とする）

C 男女共同参画の視点を入れた地域の課題解決のための調査・研究

テーマ

ア 政策や方針の決定の場における女性の参画拡大

イ 男女双方にとってのワーク・ライフ・バランスの実現

ウ 男女共同参画推進による地域力の強化

エ 生活上の困難や男女の暴力に関する課題への対応

事業費

上限 15 万円

※計上できる経費は、

事業費…謝金、交通費、印刷製本費、使用料

運営費…事務費、役務費

事業実施期間

平成 26 年 7 月～ 12 月

事業報告会 平成 27 年 2 月 20 日（金）13：00～ あざれあ 5F 501 会議室

①の書類を②の締切日までに交流会議事務局まで送付の

こと

① 提出書類

A あざれあ地域協働事業申請書（様式第 1 号）

B 事業計画書（様式第 2 号）

C 収支予算書（様式第 3 号）

D 実施団体、協働団体の概要（様式第 4 号）

② 募集締め切り

平成 26 年 6 月 30 日（月）とし

6 月 1 日～ 6 月 30 日を応募期間とした。

事業説明会について

東部、西部で事業説明会を実施した。

東部

6 月 18 日（水）13：00～ 17：00

ふじのくに東部 NPO 活動センター

（沼津市大手町 1 丁目 1－3 沼津商連会館ビル 3 階）

説明会参加団体 2 団体うち応募は 1 団体

西部

6 月 19 日（木）13：00～ 17：00

磐田市男女共同参画センターともしあ交流スペース

（磐田市森岡 1 5 0（磐田市役所豊田支所内）

説明会参加団体 2 団体うち応募団体は 2 団体

実施団体選考について

平成 26 年 7 月 7 日（月）13：30～ 1730

あざれあ 5F503 会議室において、応募団体のプレゼンテーションを実施した。

応募団体は 17 団体。



7/7 プレゼンテーションの様子

審査員

森俊太さん(静岡文化芸術大学教授)

田嶋源さん(静岡県男女共同参画課課長代理)

大川須津子(NPO 法人あざれあ交流会議代表理事)

浦山亜希(NPO 法人あざれあ交流会議副代表理事)

高部宗夫(NPO 法人あざれあ交流会議副代表理事)

杉浦義夫(NPO 法人あざれあ交流会議事務局長)

実施団体を決定、結果は書面で通知した。



講評をする森さん

No.	応募団体名
1	NPO はぐくむ
2	一般社団法人 大学女性協会静岡支部
3	一般社団法人ダイバーシティ・デザイン・ラボ
4	いわたすみれの会
5	インターセクション
6	御前崎市シニアスクール実行委員会
7	共同参画ワーキンググループ True Colors Planning
8	誕生学アドバイザー静岡県講師会
9	静岡エコセトラ
10	静岡県中小企業診断士協会 新三方原研究会
11	しずおか女性の会
12	特定非営利活動法人 色彩心理診断士協会 COMPAS
13	特定非営利活動法人生き活き岳南クラブ
14	特定非営利活動法人コラボりん湖西
15	ぬまづ男女共同参画ネットワーク
16	みしま女性史サークル
17	みらいネット浜松

が、市民レベルでの活動が助けを求める人に有益となる。社会の幸せは市民活動がつくっていくのだと感じた。地域の行政との協働、事業を行う上での協働は有益。事業後のアンケートは個々の団体が持っているのではなく、集めてデータベースにするといい。貴重なデータを集めるのは有益。ソーシャルキャピタル、人間関係資本、知識などの資本の格差が不平等となる。これをうめるのは市民活動ではないかと思うと講評した。

また、県男女共同参画課の田嶋課長代理は、いろいろな活動を男女共同参画の視点で行う。そこでよそもやっている、協働したいねと広がっていったらいいと結んだ。

報告会

平成 27 年 2 月 20 日(金)13:00～16:00

あざれあ 5F 501 会議室において、実施団体の事業報告会を実施した。

参加者は 9 団体 14 人。

それぞれの事業の報告をした。

実施団体選考の審査員だった森俊太さんが、静岡のみならず、皆さんの活動が社会をつくっている。自尊心を持って頑張って活動してほしい。プロ解決者はたくさんいる



会場の様子

3. 課題と展望

事業説明会を東部、西部で行ったが、地域で活動している団体の広域的なマッチングなどもできたらいい。男女共同参画の視点が弱い事業でも、指導や協力で素晴らしい事業になる可能性もある。プレゼンテーションを行ったことで、自分たちのやりたいことを明確に伝えるスキルが試された。いい企画でもプレゼンテーション力がなければ、良さは伝わらない。また、伝える力があれば、地域の団体が、他の地域の団体と協働して、男女共同参画を広域的に広めることも可能だ。地域の小さな団体が、長年暖めてきた企画を、協働によって、そしてこの事業の助成金によって実現し、地域の男女共同参画の推進に寄与できたならどんなに素晴らしいだろう。

共同参画ワーキンググループ

True Colors Planning(トゥルーカラーズプランニング)

代表 園部 真由美

「僕らの家庭科 vol.2 若手職人に習う暮らしのコツ」

1. 事業の目的

昨年と同様に、講師に3名の地元若手男性職人を招き、プロの技を学び実践、各家庭への還元を目的としたシリーズ講座。今回は「おもてなし」がテーマ。消極的でコミュニケーションのきっかけを待っている中高年男性に出来るだけ声をかけるなど、参加者の年齢・性別に偏りが無いよう募集する。託児の子供も含め、他人同士で「疑似家庭」を作り協働してもらおう。性別役割分担を意識しないような関係や環境を演出し、いつもと違う視点で見る「家庭のあり方」を体験してもらう。

2. 事業の内容

【DAY_1】

日時：平成26年11月1日(土) 13:00～16:00
会場：島田市立金谷公民館 みんなる集会室3(講座)
参加者：25名(男性6名、女性19名)、託児3名
内容：

1 時間目 魅力溢れる和菓子の世界

講師 増田 考弘さん(御菓子司 龍月堂)

2 時間目 大切な“あなた”に淹れる至極のお茶

講師 田村 善之さん(たむらのうえん)

- 性別や年代を分けた「疑似家族」を作り、トゥルー・カラーズ・タウンに暮らす設定とする。
- 日直や帰りの会など、学校の雰囲気も出す。
- アイスブレーキングとして、各々の班で自己紹介とグータッチの後、班の苗字を決める。
- 1時間目＝繊細な職人技を見本に、練りきりの「菊」と「紅葉」に挑戦した。
- 2時間目＝相手や状況によって茶葉や茶道具を選ぶ楽しみを学び、試飲。最後は、家族同士お茶を淹れておもてなし。一緒に練りきりも味わう。



DAY1 平成26年11月1日(土)

■時間 午後13:00～16:00(受付午後12:00～)
■会場 島田市立金谷公民館(みんなる)2F集会室3
【1時間目】 魅力溢れる和菓子(御菓子司「龍月堂」)作り体験～講師 増田考弘さん、御菓子司 龍月堂
【2時間目】 大切なあなたに淹れる至極のお茶
講師 田村善之さん、たむらのうえん

DAY2 平成26年11月5日(水)

■時間 午前9:30～12:00(受付午前9:00～)
■会場 島田市立金谷公民館(みんなる)2F集会室3
【3時間目】 暮らしにそっと花を、もっと花を
講師 田中裕二さん(花・華主催)
【休講後】 「僕らの家庭科 vol.2」まとめ

共同参画ワーキンググループ
トゥルー・カラーズ・プランニング
Touluu Colors Planning
Gender Equality & Diversity True Colors Planning
「僕らの家庭科 vol.2」は、島田市立金谷公民館(みんなる)2F集会室3で開催します。
お問い合わせ：http://tcoloring.kublog.jp/ TrueColorsPlanning

【DAY_2】

日時：平成26年11月5日(水) 9:30～12:00
会場：島田市立金谷公民館 みんなる集会室3(講座)
参加者：19名(男性4名、女性15名)、託児0名
内容：

3 時間目 暮らしにそっと花を、もっと花を

講師 田中 裕二さん(花・華主催)

放課後 「僕らの家庭科 vol.2」振り返り

- 「家庭→会社に行く」設定で、DAY2「会社班」を作る。
- 3時間目＝フラワーアレンジは、リビング・食卓・寝室・玄関の4課に分かれ、同じ花材で違うアレンジを学ぶ。
- 放課後では、参加者同士でのよかった探し(家族への感謝の気持ちを付箋に書き、花の形に飾って贈り合う)や、自分や実家族の「居場所や役割」へ意識を戻すワークを通し、講座終了とした。

3. 事業の効果

アンケートからは、この講座をきっかけとした新たな出会いや交流による人間関係の広がりとともに、実習や職人技に触れたことによる感動、新たな視点の獲得や視野の広がりによる“自分自身や互いの尊重”“協力の重要性”への気づきが実感として参加者の中に残ったことがわかる。



フラワーアレンジメントに初挑戦！

法がちりばめてある。

基本的に家庭科に関わる知識や技の習得は、若手男性講師（職人）から学ぶ。今回は和菓子作りやお茶を淹

れる体験から、“おもてなし”の心、相手への自然体な思いやりを、フラワーアレンジメント体験からは、同じ素材から違う表現を創り出す可能性を実感した。最後にはワークを通し、参加者が互いの良さを見つけ贈り合った。一つ一つのメッセージが集まり参加者自身の心にも花を咲かせた。

アンケート結果からも分かるように、参加者の満足度も非常に高く、「自己の再発見」や「新しい視点・つながりとの出会い」に溢れた多彩な感想が届いている。参加した人じゃないと分からない、理屈じゃない「実感」がそこにある。

日本における「男女共同参画」は言葉や内容の難しさ、日本独特の男女に関わる伝統的価値観に馴染まず、まだまだ無理解と抵抗感の中にある。しかし世界指標から見ても、長年日本はこの視点拡散で世界に遅れをとり（*1）、結果、人口・働き手減少、子育て・就労・介護難という社会基盤維持困難な時代に急速に向かっている。今、「女性が輝く社会」のためにも、その女性を取り巻く男性や、立場の違う多様な一人ひとりの可能性を活かすためにも、理解浸透の遅れているこの視点を、社会の土壌に耕し込む必要がある。

私たちトゥルー・カラーズは、いずれ「男女～」と語らなくていい社会、すべての人々のトゥルー・カラーズ（＝本来の自分らしさ）が輝く社会を目指している。あえて「男女～」と声高に語らず、この本質と理解を広める活動を、これからも地道にしながらに展開していきたい。

(*1) ジェンダー・イクオリティに関する世界指標：

OECD グローバルジェンダーギャップ指数
(2014) 日本 104 位 / 142 カ国中

4. 課題と展望

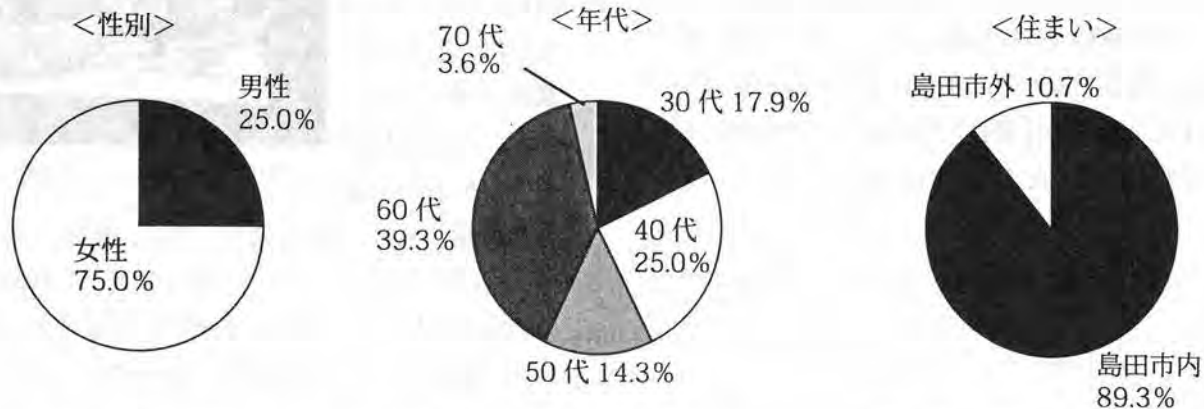
「僕らの家庭科」は私たちトゥルー・カラーズ・プランニングが心を含め、自信を持ってお届けする多角的複合的プロジェクトである。「男女共同参画とは何ぞや?」を言葉で説明するのではなく、参加者に「男女共同参画が当たり前の社会」にどっぷり浸かってもらい、実感・体感していただく。ハタから見ると一見どこにでもあるカルチャークラスのようかもしれない。しかし、実は男女共同参画とダイバーシティ視点の様々な魔



増田さんの職人技に見入ってしまいます

5. アンケート結果

Q 1. あなたの性別、年代、お住まいを教えてください。



Q 2. グループ内の家族と、仲良くなれましたか。(複数回答)

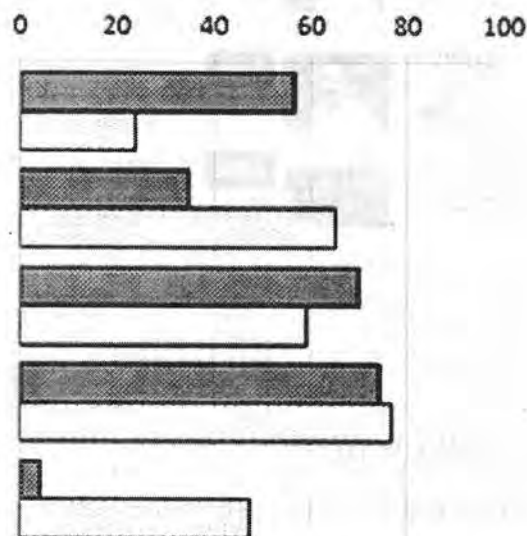
1. アイスブレイキング(自己紹介など)が楽しかった

2. 仕事の分担・助け合いができた

3. いろいろな人と話をした

4. 他の世代との交流ができた

5. その他



Q 3. 「僕らの家庭科」を受講しての満足度は？

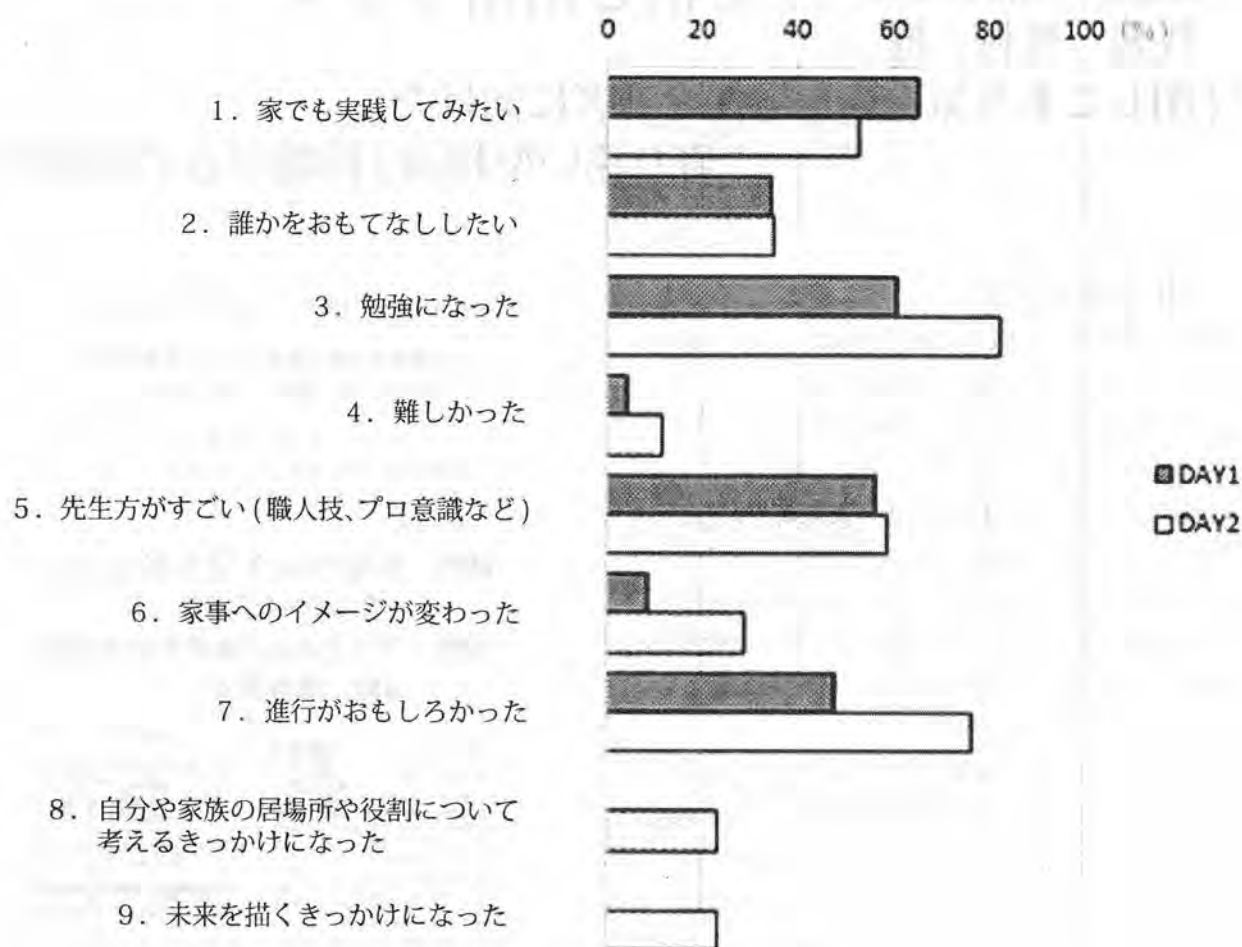
<DAY 1> 平均 101.0%

<DAY 2> 平均 96.1%



みんなでわいわい、色々な茶葉を試飲しています。

Q 4. 講座内容はいかがでしたか。(複数回答)



Q 5. 感想・意見など(自由記述より)

- ・楽しかった。(13)
- ・また参加したい。(8)
- ・知らない、多世代の人達とも打ち解けて、楽しかった。(3)
- ・自分を見つめ直すことができた。(2)
- ・「家族」といろんなことを学んで楽しかった。もっと話したかった。
- ・DAY2からの参加だったが、皆さんの輪に溶けこめて、楽しく過ごせた。
- ・全てが、家族や今の生活につながると、改めて認識した。
- ・家庭での協力、地域での協力の重要性を感じた。
- ・男性でも家事をしている人がいることを知ってほしい。

- ・おもてなしの心の深さを感じた。
- ・トウルー・カラーズ・プランニングの皆さんそのものが、おもてなしだった。
- ・スタッフの「楽しんで学んでもらいたい」という気持ちと心遣いを感じた。
- ・明るい楽しい未来が見える教室にしてくれて、ありがとう。
- ・最初はわかりにくい部分もあったが、主旨やタイトルなどから、独創性があり、楽しく思った。
- ・学生生活に戻ったみたいで若返った。
- ・興味のある手仕事を体験できて嬉しい。
- ・お茶の淹れ方、お花の生け方、勉強になった。
- ・違う視点で見ると景色が変わることを、お花で実感した。同じ人間でも視点を変えてみたい。

特定非営利活動法人 生き生き岳南クラブ 代表 竹村 健二

「(閉じこもり気味の) 男性介護者に向けた “寄り添い型相談(傾聴中心)”の紹介」

1. 事業の目的

男性介護者が、介護負担で社会参画できない、更につぶれていく数が増え、個人問題の枠を超えようとしている。男性介護者が、昨今の社会的性役割(ジェンダー)の急変に順応できていないのが主因だと思う。ここまで、その対応として、①当事者同士の互助組織(家族会)づくりや、②(公的)支援者などへの支援ネットワークづくりの呼びかけなどを試みてきた。ただ、(我々を含め、)各当事者個人や互助会は、自己観察力、発信力や解決力が極めて小さい事(時間や経済力がない)は自覚している。

ところが昨年6月、静岡県男性介護交流会が富士市男性介護者交流会へ視察という、富士市域などの小地域活動しか想定していなかった(富士市男性介護者支援をしている)我法人では想像もできない交流が生まれた。この機会を何らかの形で活かしたいという願いから上記事業を企画した。

上述通り、我法人は上記①、②の試みをしてきた。特に②の試みを進めるにあたり、⑦当事者を観察する中で、「当事者目線の相談窓口」の必要性を感じ、④「寄り添い相談(当事者目線で傾聴中心の相談)」を開発し、実践してきた。少例ではあるが、・レスパイト提供と、・自身の生活や介護に前向きさの醸造 という点で、特に「長期間引きこもっていた男性介護者」に有用だったと自己評価している。

これを、当問題で苦しんでいる、当事者やその支援者らに、紹介・広報(「知って下さい、利用して下さい、伝えてください」)するのが本事業目的である。

2. 事業の内容

日時：平成26年12月6日 13:30～16:30

会場：アイセル21 静岡市女性会館 集会所 41

参加者：22名

あざれあ地域協働事業：静岡県男性介護者連絡会の設立記念シンポジウム

当事者が自助支援をデザインする時代に

“実例紹介「孤立する男性介護者向け」寄り添い型相談”などを中心に”

当日内容

- 1 静岡県男性介護者連絡会の設立記念会
- 2 講演(津止立命館大学教授)と当事者グループ活動報告
- 3 意見交流会

時間：平成26年12月6日(土)
13:30～16:30

場所：アイセル21 静岡市女性会館
4階 集会室41

【講師プロフィール】
津止正敏 教授
★立命館大学文学部社会学専攻
立命館大学大学院社会学研究科
博士課程修了、京都府社会福祉協議会に20年間勤務
(地域福祉部長、ボランティア推進センター長等職任)
の他、2001年4月より退職。
専門は地域福祉、社会福祉法人のみなみ(理事長)や、男性介護者と支援者の全国ネットワーク(事務局長)などの社会活動にも参加。主眼は「男性介護者白書」家族介護者支援への関与など。
★男性介護者と支援者の全国ネットワーク事務局長、立命館大学人間科学研究所男性介護研究会代表



※アイセル21男性介護者交流会(※)、富士市男性介護者交流会(※)、NPO法人生き生き岳南クラブ
※ 静岡県男女共同参画センターあざれあ
※ 静岡市、富士市、静岡県社会福祉協議会、静岡県福祉、富士ニュース社
※ 静岡県福祉政策課、アイセル21静岡市女性会館

内容：

シンポジウム

当事者報告(4人)と専門家の講演

会場との意見交流会

各当事者が、「寄り添い型相談」「自助型家族会」「家族会ネットワーク」「しゃべり会」など自らデザイン(開発)した自助支援を紹介、先生がそれらの源泉となった「家族会の意義」を説明。

次第

13:30	開会あいさつ
13:45	当事者事例提案
14:30	津止先生講演
15:20	休憩
15:30	意見交換会

3. 事業の効果



報告をするメンバー

会場参加者とのやりとりの機会がつくれる「シンポジウム」を企画した。

それは、「男性介護者がヘルプ出しの苦手」が主因で、有識者は、男性介護者問題の構造的な把握ができていないといえず、その具体的な対応も整理されていないという現状認識が底流にあった。それ故、専門家だけでなく、当事者、会場来場者などから、様々な立場の意見を聞き、皆で考えたかったからである。

よってシンポジウムの基本設計は、四人の当事者たち（パネラー）による話題投げかけと専門家からの助言、残り時間にそれらを受けての会場参加者との意見交流会とした。

準備を進めていく中で、そこに更に、ふたつの要素が加わった。「県連絡会の設立」と「当事者による介護資源の開発」である。

前者は、県（静岡市）には地方市（富士市など）にはない「県庁・あざれあ・アイセル21（女性会館）・県社協・（常葉）大学（看護科）」などの支援組織があることや、文化が違う静岡市男性介護者交流会との貴重な

交流機会を、この事業だけで終わらせるのは惜しいと企画関係者皆で合意したからである。「県連絡会の設立」という形で、今後継続性を持たせようとした。

後者は、本事業の広報に伴う後援・協力をお願いする中で、たまたま相手方の窓口担当者が、「（介護保険改正における）総合事業の推進者達（県全6人中の4人）」だったことによる。総合事業は、地方が地域特色に照らし介護予防等の地域福祉をデザインしていくものである。地方行政とその住民の、自己観察評価力・介護資源開発力・ネットワーク力などが問われるものである。その意味で、総合推進者達が、（地域住民の介護資源開発等を例示した）本事業に興味を示してくれた。そこで、当事者パネラーには、（各人の介護負担の苦労や心情を話して頂くとともに、）各人の現活動（介護資源の開発）の話を加えていただいた。具体的には、以下の4事例である。

- ・「寄り添い型相談（本事業メインプログラム）」：富士市男性家族者交流会（実施中）
- ・「地域協力による、一人で抱える男性介護差への交流会への誘い」：富士市男性家族者交流会（一回地域に理解されず失敗、二回目チャレンジ中）
- ・「しゃべりの会（少人数グループによる傾聴会）」：静岡市男性家族者交流会（アイセル21の協力で実施中）
- ・「静岡市介護家族会のネットワーク化」：静岡市男性家族者交流会（構想中）



津止先生の講演

第3期：介護者組織の「再モデル化」

* 介護する人される人の属性に着目した会や活動

- 2000年 介護保険施行
- 2006年 高齢者虐待防止法施行
- 「介護者支援」を求める世論
- 多様な家族介護者・介護者支援組織の登場

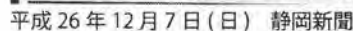
2001年 NPO法人介護者サポートネットワークセンター・アラジン
 2002年 ケアする人のケア研究所(たんぽぽ財団)
 2005年 NPO法人パオロ(遠距離介護 1996年任意団体の)
 2009年 男性介護者と支援者の全国ネットワーク
 2010年 日本ケアラー連盟(介護者支援法の提起)
 2010年 若年認知症家族会・支援者連絡協議会

津止先生のPPT

4. 課題と展望

1) 参加者のうちの支援者に、当事者の苦労や心情について、理解（気づき）や共感して頂いたと思う。また、参加者のうちで「一人で抱え込んでいる当事者」に、互助活動をしている仲間が存在を知って頂いたと思う。これらによって、本事業の主目標である「寄り添い相談の紹介（とその理解）」の土台ができたと思う。

3) 県単位で考える機会を頂き、(日頃、目先しか見えない我々にとって、) 新たな人脈ができた。大切にしていきたいと思う。



5. アンケート

回答者は 14 人

性別	男性 (10)、女性 (4)
参加の立場	介護者 (8)、支援者等 (6)
パネラー発表・教授発表	満足 (14)
「県連絡会」との 今後の関わり	・参加 (10) ・支援 (4)

6. 連携・協働・協力先

協働、協力先		
主催	静岡市・富士市の 男性介護交流会	当日パネラー
共催	NPO 法人 あざれあ交流会議	委託、広報、事業運営の助言、 あいさつ他
後援	静岡市	県連絡会の設立時の助言、 広報
〃	富士市	「寄り添い相談の出前講座」
〃	静岡県 社会福祉協議会	広報、当日参加（地域包括 センター）と助言
〃	静岡新聞社	当日報道、特集記事「介護 SOS」の取材：富士市交流 会とその会員
〃	富士ニュース社	寄り添い相談の取材
協力	静岡県長寿政策課	介護資源開発について助言、 当日参加と助言
〃	アイセル 21 女性会 館	会場・備品貸（無料）、広報
その他	津止立命館教授	講演、県連絡会設立祝

いわたすみれの会

代表 河合 彦次

平成 26 年度男女共同参画セミナー

認知症・介護のこと考えてみませんか？

「認知度を理解して先手必笑」

1. 事業の目的

「女性も男性も人として尊重され、その人らしく生きることができ、互いに認め合える社会」は、すべての人の願いである。日本では平成 25 年の人口に占める 65 歳以上の割合が 25% を超え、4 人に 1 人が高齢者という時代となった。介護は他人事・女性だけの問題ではない。男女が性別にかかわらず、相互の協力の下に、家族の介護やその他家庭生活における活動について自覚を持つとともに、生きがいを見つけられる場とする。

2. 事業の内容

日時：平成 26 年 10 月 22 日（水）

10：00～11：00

会場：ワークピア磐田

参加者：320 名

内容：

男女共同参画を進める研修会、講演会、意見交換等の開催

男女共同参画事業として、「認知症介護と予防」をテーマに講演会（セミナー）を開催しました。



元気いっぱい、笑顔いっぱいの鈴木美喜代さん

男女共同参画セミナー

講演会 平成 26 年度男女共同参画セミナー

認知症・介護のこと 考えてみませんか？

「認知度を理解して先手必笑」

2014.10.22(水)
AM10:00~11:00

入場料無料

講師
なかよしサービス
指定居宅介護支援事業所
所長 鈴木 美喜代氏
(主任介護支援専門員)

20年以上介護現場や相談業務に携わり、多くの人々の介護支援を行ってきました。
地域包括支援センター長時代には、「これからの高齢化社会を貢献に生き抜くためには一人ひとりの意識の啓発が大切」と住民の啓蒙と一緒に勉強会を数多く行いました。
明るく、わかりやすい、心に残る話をしたいと思っています。聞いてみてください。

主催 いわたすみれの会・全国年金受給者連合会磐田協会
静岡県おひろみ地域包括支援事業・男女共同参画推進事業
磐田市男女共同参画推進協議会

ワークピア磐田

一般市民、若い人、男性への参加を呼び掛けて、参加者 300 人を目標にしていたが、当日は雨の中、目標を上回る 320 人の方が来て頂きました。

講演は、講師の永年の経験と実績、豊富な知識の基、解り易い用語と話し方で参加者をひとつひとつ納得させてくれました。時には笑いもあり、拍手も起こり、難解な用語は使わず「認知症」を知る事は予防とケアに成る事、家庭にあっては男性のやる事、女性のやる事に枠を作らない事、「男子厨房に入らず」は捨て、互いに協力する事、等々、解り易い説明で男女共同参画の意義と意味が理解出来た講演会でした。

3. 事業の効果

男女の別なく認知症の予防と介護の事を学ぶ事は、若年層、高齢者の隔てなく必要であり考えることと決め、若い人、男性を重点に一般市民に呼び掛けて講習会を開催しました。講師には、豊富な経験と知識を持った主任介護支援専門員 鈴木美喜代さんにお願ひしました。地域社会にあって人と交流すること、家庭にあって、仕事に男女の枠を作らない互い協力し合うこと、男女共同参画の基本であって始まりであることを学んだ講演会でした。

4. 課題と展望

この事業は、各所、各方面の方々に側面から又、一体となって協力をしてくれなした事業でした。

磐田市役所市民部市民活動推進課を始め、「磐田市内各所の地域包括支援センター」、「磐田市男女共同参画支援センターともりあ」、磐田市自治会連合会、民生委員、ふれあいサロン多くの方々に支援をいただきました。事業開催日までの2ヶ月半の準備期間は「いわたすみれの会」「年金受給者協会磐田支部」にとって貴重な日々で、男女共同参画の意義と意味を自らが学び伝える役目を担うことができました。このことは、今後の活動にも生かしていきたいと思います。

5. アンケート結果

- ① 今日の講演会は良かったと思いますか
はい85% いいえ10%
- ② 男女共同参画の意味は理解出来ましたか
はい45% いいえ3%
- ③ この講演会はどこで知りましたか
チラシ15% 人伝20% 会員から65%
- ④ 認知症について関心がありますか
ある80% ない5%
- ⑤ また、講演会があれば来ますか
はい60% いいえ2%



鈴木さんの話術に引き込まれる参加者

鈴木さんワード

家庭介護の中でこそ
男女共同参画の考え方を
取り入れよう

○介護は女性がするもの？
介護＝女性、嫁ではない！

男性介護者の傾向

- まじめで、真剣
- 他人に悩みを相談しない
- 孤独に陥りやすい
- 完璧主義者の虐待が多い

認知症にならないために
魚、野菜、果物を多く取る
赤ワインを適量飲む
有酸素運動をする
塩分を取りすぎない

御前崎市シニアスクール実行委員会

代表 曾根 竹男

御前崎市シニアスクール

1. 事業の目的

一般的に言われる市民が学ぶ市民大学に、異世代交流（男女共同参画社会の構築）の視点を加え、御前崎の財（人、物、こと）に学ぶシニアスクールを実施する。

教室（シニアスクール）を学校に置くことで、シニアは子どもたちの息づかいを感じながら、自分たちの学びを楽しむことができる。子どもたちは、男女仲良く意欲的に学ぶシニアの熱意を感じながら学ぶことで、自身に生涯学習の種を蒔く。

2. 事業の内容

会場 御前崎市立白羽小学校

参加人数 32人

（市内在住で学習意欲のある55歳以上の市民対象）

日（曜）	内 容	講師等
9/1（月）	入学式 説明会	レク講師
9/9（火）	社会「郷土の偉人」	郷土史家
9/16（火）	理科「御前崎の動植物」	自然研究家
10/7（火）	人生学「男女仲良くシニアの楽しみ方」	静岡産業大教授
10/14（火）	国語「万葉集」	万葉の会
	理科「風蝕礫」	自然研究家
10/21（火）	理科「メロン学習」	メロン農家
10/28（火）	音楽「ふるさとの歌」	音楽愛好家
11/4（火）	図工「アートのこけ玉」	アーティスト
11/11（火）	家庭「漁師料理」	漁港女性部
11/18（火）	卒業式	



会場は白羽小学校です。学習する子どもたちを感じながら、様々な学びを体験できます。

■ 目的 ふるさとの子どもとシニア世代が共に学び、知識を深め、交流し、心豊かな人生と地域を創造するため。

■ 授業予定（変更する場合があります）

9/1 (月)	9/9 (火)	9/16 (火)	10/7 (火)	10/14 (火)	10/21 (火)	10/28 (火)	11/4 (火)	11/11 (火)	11/18 (火)
9:00 ~11:00	10:30 ~12:10	10:30 ~12:10	10:30 ~12:10	10:30 ~12:10	10:30 ~12:10	10:30 ~12:10	10:30 ~12:10	10:30 ~12:10	10:30 ~12:10
入学式 説明会	社会 郷土の偉人	理科 御前崎の動植物	人生学 男女仲良くシニアの楽しみ方	国語 万葉集	理科 メロン学習	音楽 ふるさとの歌	図工 アートのこけ玉	家庭科 漁師料理	卒業式

■ 場 所 御前崎市立白羽小学校 空き教室

■ 対 象 御前崎市在住で、学習意欲がある満55歳以上の方

■ 定 員 30人（先着順）

■ 授業料 年間2,000円（保険料、教材費等）

■ 募集期間 平成26年7月22日（火）～8月8日（金）

■ 申込方法 「申込書」を直接持参するかFAXで申し込む。

■ 申 込 先 御前崎市立白羽小学校（FAX 0548-63-2107）

■ 問合せ先 学校教育課（電話 0548-63-1130）

■ 実行委員 御前崎市シニアスクール実行委員会、白羽小学校、教育委員会

■ その他 「申込書」は、各地区公民館、白羽小学校、御前崎支所、アスバル、ふるる にあります。



3. アンケート結果

(1) 82.1%の参加者がすべての授業に評価Aをつけている

(2) 自由記載

・御前崎市内の全小学校を対象に開校できれば素晴らしいものになる。そのためには、卒業生等が中心となっていけばよいと感じる

・地元には素晴らしい人材があると感じた。色々なことを勉強したいと思った。

・白羽小学校の児童との給食を体験させてもらった。本当に「笑ひ練習」だった。

漁師料理、メロン学習がよかった。漁師を待つ女性の動きにもスポットを当てて教えてほしい。

体育があつてよかった。



人生哲学を学ぶ



こけ玉でアートする!?



私たちの頃の給食と全然違う・・・

9月2日 静岡新聞

学ぶ楽しさシニアにも

御前崎児童と勉強、スクール開校

55歳以上の御前崎市
民が、小学生と一緒に
学ぶ「シニアスクール」
が1日、市立白羽小内
に開校し、1期生32人
の入学式が同小で開か
れた。学ぶ楽しさを味
わってもらおうととも
に、大人が勉強する姿
を子どもたちに見て
もらい、学習意欲の向
上につなげようと市
教委が初めて取り組ん
だ。

授業は週1回1日2
こまのペースで、11月
18日が卒業式。同小の
会議室を拠点に、郷土
の偉人(社会)、同小
との交流も楽しみ」と
近々にある万葉集の句
碑見学(国語)、メロ

「栽培の工夫(理科)
など地元に関連した授
業を受ける。地域の有
識者や農家などが講師
を務める。

小学生も参加する授
業もあり、希望するス
クール生は給食も一緒
に食べる。

1期生の最年長は85
歳の女性。入学式では
同小校長で、スクール
の講師節助校長が「笑
顔を習った文字を掲げ、
「皆さんの向上心に驚
いている。楽しく学ん
でいただき、子どもた
ちの刺激になればう
れしい」と述べた。

新入生を代表してあ
いさつした植田一さん
は「心から帰って
学びたい。子どもたち
との交流も楽しみ」と
張り切っていた。

特定非営利活動法人 コラボりん湖西

代表 神谷 尚世

子育てママが地域活動に参画する条件についての調査

1. 事業の目的

近年、市民活動地域活動においてよく聞かれる後継者不足は大きな課題の一つである。家庭で子育てをしている幼稚園児の母親が空いている時間を活かし、地域に貢献したり、子供と共に地域活動に参加できる環境により次世代の地域の担い手が育ち、後継者が生まれる。

その後継者となりうる、子育て中の母親がどのような環境であれば地域活動に参加できるのかを調査研究し、今後の地域活動に役立てる

2. 事業の内容

空いている時間を活かし、地域に貢献したり、子供と共に地域活動に参加できる環境についての調査

実施時期：8月～12月

実施会場：湖西市内全域

対象者：湖西市の幼稚園児の母親

参加人数：811人

連携・協働団体：湖西市幼児教育課、湖西市市民協働課、湖西市内幼稚園7カ所、特定非営利活動法人ポレポレ

子育てママが地域活動に参画する条件についての調査

<全体集計>

Q1 子育てに関する情報はおもに次のどれから得ているか（主なもの3つ）

Q1-①	Q1-②	Q1-③	Q1-④	Q1-⑤	Q1-⑥	Q1-⑦	Q1-⑧	Q1-⑨	Q1-⑩
友達	テレビ・ラジオ・新聞	育児雑誌	インターネット	母（祖母）	家族	先輩ママ	幼稚園	行政	その他
672	287	89	304	309	167	308	225	37	10

Q2 ふだんの生活であなたがホッとするのはどんな時か。（複数選択）

Q2-①	Q2-②	Q2-③	Q2-④	Q2-④	Q2-⑤	Q2-⑤	Q2-⑥	Q2-⑦
子供が寝たとき	夫が帰ってきた時	家族全員で食事をする時	自分が寝る時	一人で過ごす時	ママ友と過ごす時	趣味をしている時	ボランティアをしている時	その他
632	308	270	443	432	252	248	13	47

Q3 ふだんの生活でのお困りごとや悩み何か。(複数選択)

Q3-①	Q3-②	Q3-③	Q3-④	Q3-⑤	Q3-⑥	Q3-⑦	Q3-⑧
近所づきあい	自分の時間が少ない	子どものしつけ	自分や家族の健康	子どもの成長・発達	姑や義父との関わり	夫との関わり	家事が得意(好き)でない
69	262	489	214	311	107	66	119

Q3-⑨	Q3-⑩	Q3-⑪	Q3-⑪	Q3-⑫	Q3-⑬	Q3-⑭
家計(お金)	家事と子育ての両立	自分の性格	幼稚園のママとの関わり	幼稚園の先生との関わり	習い事	その他
330	113	165	121	23	63	37

Q4 子どものことで悩みを相談する人は主に誰か。(一つを選択)

夫(配偶者)	夫以外の家族	ママ友	ママ友以外の友達	カウンセラー 保健師など専門家	その他	計
552	105	107	22	10	13	809

Q5 現在、子育ては楽しいか。

とても楽しい	どちらかというと楽しい	あまり楽しくない	まったく楽しくない	計
250	505	59	1	815

Q6 あなたが興味・関心があるものは何か。(複数選択)

Q6-①	Q6-②	Q6-③	Q6-④	Q6-⑤	Q6-⑥	Q6-⑦	Q6-⑧
子どもの教育	インテリア	自分のスキルアップ	美容健康	仕事	ファッション	スポーツ	資産運用や保険
502	258	240	338	223	334	138	48

Q6-⑨	Q6-⑩	Q6-⑪	Q6-⑫	Q6-⑬	Q6-⑭	Q6-⑮
住宅購入	料理	家庭菜園	お菓子作り	読書	旅行	その他
66	269	101	196	147	314	50

Q7 地域活動であなたが参加してもよいと思うものは何か。(複数選択)

Q7-①	Q7-②	Q7-③	Q7-④	Q7-⑤	Q7-⑥	Q7-⑦
子ども会	介護高齢者の支援	読み聞かせボランティア	母親クラブ	子育て支援	湖西市青空学級	幼稚園家庭教育学級
411	74	176	132	176	119	137

Q7-⑧	Q7-⑨	Q7-⑩	Q7-⑪	Q7-⑫	Q7-⑬	Q7-⑭
子どもの自然体験	風水害地震火災などの防災	障害児者への支援	子どもの学習支援	心に悩みを持つ人の相談	環境整備・美化	その他
417	81	84	156	55	66	11

Q8 取得した資格、趣味や特技は何か。(複数選択)

	主な趣味・特技・資格	計
1	ものづくり	114
2	スポーツ	94
3	趣味	66
4	音楽(内ピアノ 32)	51
5	英語(英検等)	45
6	幼稚園教諭免許	44
7	保育士免許	42
8	ヘルパー	32
9	珠算	30
10	看護師免許(准看を2名含)	25
11	教員免許(小)	25
12	介護福祉士	20
13	美容師免許	18
14	栄養士免許	14
15	調理師免許	12
16	歯科衛生士免許	8
17	社会福祉士	5
18	保健師	4
計		649

ものづくりの内訳

お菓子・パン・料理	45
和裁 洋裁 手芸 等	41
小物・工作・など	28

Q9 これから地域活動に取り組む場合に必要なのは何か。(順位選択)

	時 間	仲 間	経済・お金	相 談 者	活動場所	応 援 者
順位	1	2	3	4	5	6
得点	3926	3280	2566	2022	1985	1927

<回答者について>

家族人数	2	3	4	5	6	7	8	9	10	NA	計
件数	4	69	366	187	104	50	18	8	2	9	817

子どもの人数

子ども人数	1	2	3	4	5	NA	計
件数	83	473	206	43	4	8	817

このうち小学生以上のお子さんの人数

小学生の人数	0	1	2	3	4	NA	計
件数	347	273	112	21	1	63	817

回答者の年齢

年齢	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-	NA	計
人数	9	74	260	290	148	17	2	17	817

湖西市居住年数

年数	1-5 年	6-10 年	11-20 年	21-30 年	31 年～	NA	計
件数	180	248	95	89	188	17	817

親との同居・別居

年数	同居	別居	NA	計
件数	252	548	17	817

回答者の職業等

職業等	専業主婦	パート	正社員	自営業	その他	NA	計
件数	537	178	35	28	28	11	817

有効サンプル数 817